

同盟活動シリーズ

女性部発足一年記念集会

——対談「伊藤千代子の生涯と『いま』を語る」

高橋 妙子

千葉県同盟女性部を結成して一年が経ちました。この間、女性部が頑張らねば、映画「わが青春つきるとも」の成功はない。を合言葉に、県本部一丸となって支部のたち上げの働きかけと、各支部女性部のたち上げと支部学習会を積み上げてきたことを確かめ合い、さらに前進させるために3月19日(土) 船橋市「きららホール」に於いて90人の参加で「女性部発足一周年記念集会」を開催しました。

この集会で私たち女性部は、伊藤千代子の生涯を描いた映画「わが青春つきるとも」製作支援と上映運動が進む中で、治安維持法のもとで、24歳で獄中死をした伊藤千代子の生涯・歴史の事実を知ってもらうことを願い、漫画「伊藤千代子の青春」の作者ワタナベ・コウさんとさいつく和子さん(千葉県女性部長、日本共産党千葉・参議院予定候補)との対談を企画しました。

最初に映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」学習・PR版(29分)のDVDを視聴し、司会に促され、きらら対談が始まりました。対談の進行は「治安維持同盟」の千葉県本部・小松実会長が務め、本日のテーマである「伊藤千代子の生涯と『いま』を語る」伊藤千代子がキーワードです。「お互いに聞いてみたいことを語り合っていたくださいますか」との投げかけに、2人の対談はテンション



高く聴衆の心をグッとひきつけました。

さいとうさんから「イラストはいつ頃から」との問いに「22歳で学生の頃」。
「コウさんから「議員・候補者というのは、いろんな苦労あるのでは」との問いに「共産党が議会に進出すること



与党議員に緊張が走る」など、初当選のときのさまざまエピソードなどが紹介され、国会での共産党と政権与党との緊張関係に興味津々。

また、さいとうさんが漫画「伊藤千代子の青春」に付箋を付けて臨み、「ここがですね」と紹介したのが「女は



写真提供・小松敦氏（千葉県本部署務局長）

病気をすると二重の苦しみを背負うのだ」の場面……私も読みながら「今でも変わらないなく怒りを感じる」。今でも「すべての社会の矛盾に苦しむひとつのつながりのものなのだ」と、鋭い短い言葉でまとめられており「歴史をもっと学びたくなる」とさいとうさ



んの話しに「私もそう思ったのよ」と二人は大きく頷きあい、参加者らも「そうそう」と共感する瞬間でした。
 また、東京女子大の恩師・川崎なつがスペイン風邪に感染したときのようすが描かれており、話はジェンダーフリー及び、漫画を読むと、時代背景がよくわかるとの指摘に、「それを心掛けて書いた。それを感じてもらったら

うれしい」とワタナベ・コウさん。

さらに、千代子が「諏訪高女を卒業してすぐ代用教員になって、一年生を担当したとき、お弁当を持ってこられない生徒に、千代子先生が「おにぎりたくさんつくりますから手伝って」と語りかける場面で、そのやさしさに涙がにじんだ、とさいとうさんの感想をきき、コウさん「あれは私の創作……」漫画にする、ドラマにする苦労はあるけれど、権力に屈することなく戦争に反対し、民主主義と暮らしの向上のために、24歳の短い生涯をささげた千代子の生き方を表現したかった。

二人の自由闊達に語り合う魅力に引き込まれるなかに「いま」の時代、政治と重ね合わせるメッセージが伝わってくるアツという間の70分でした。

最後に、ワタナベ・コウさんから、素敵なサブライズ。さいとうさんの似顔絵のプレゼント(写真)にさいとうさん大喜び、大拍手で終演しました。

ワタナベ・コウさんのサイン会では

長蛇の列。そして、会場で29歳の青年など2人を「同盟」の仲間を迎えました。今後、同盟船橋支部の再構築とあわせて仲間増やし、「上映会」の成功に頑張ります。

(たかはし たえこ・同盟千葉県本部副会長、同盟中央常任理事)

